

市民と市長の対話集会

市長と語ろう！

ほっとミーティング

テーマ ひらつかの「魅力発信」

開催結果報告書

- 1 開催日時 平成28年（2016年）10月5日（水）
午後5時から午後7時まで
- 2 開催場所 東海大学14号館 105号室
- 3 参加者 10人（小泉教授、成川教授、学生8人）



ほっとミーティングの様子

4 市長あいさつ

皆さん、こんにちは。講義終了後の忙しい時間に御参加いただき、ありがとうございます。また、対話の機会を設けていただいた先生方にも感謝しています。私自身、平成23年の市長に当選した一期目の任期から、市民の方々と直接対話する機会を設けています。それは市民の方々の意見をしっかりと聞くことが魅力的なまちづくりに重要と考えているからです。率直に耳を傾け、意見を市政に反映させていくことで、まちの魅力向上につなげていきたいと思っております。

今回のほっとミーティングでは、将来を担う若い世代の率直な意見を聞きたいと思っております。全国的には、少子高齢化が進行し、人口減少が止まりません。人口の減少は、自治体の体力低下に結びつき、公的サービスの質に影響を及ぼします。人口を増やすためには、平塚市が「選ばれるまち・住み続けるまち」として、多くの方々に認知してもらうことが必要です。

今年、平塚市では「ひらつかNexT」という新しい総合計画を策定しました。市のイメージ向上や定住の促進を目指し、市の様々な魅力を発信するシティプロモーションを推進しています。スローガンとして「手をつなぎたくなる街 湘南ひらつか」を掲げ、積極的にPRが出来ればと考えています。



5 ミーティングの主な内容

【参加者】学生A

平塚市は平坦な土地が多く、自転車で走りやすいと感じました。車道や歩道がきれいに整備されているため、自転車のまちとしてPRするのはどうでしょうか。また、ベビーカーを使う親御さんや車椅子を使う障がい者の方々にとっても、やさしいまちであることを発信できればいいと思います。平塚の「平」は、平（たいら）を表します。平（たいら）は英語だと flat（フラット）。ふらっと立ち寄れる魅力あるまちのイメージを定着させれば面白いと思います。

【参加者】学生B

ペコちゃん展を開催していた美術館を取材したことがあります。その際、平塚市内に不二家の製品を作る工場があることを知り驚きました。不二家の製品は知名度があり、知っている製品がこんな近くで生産されていることに魅力を感じました。また、交差点で、ボランティアの方々が登校途中の小学生に声掛けしているところを見て、地域の温かさを感じました。地域全体で、子どもたちの見守りが出来ていることは魅力だと思います。

【参加者】学生C

平塚市は、介護や子育ての施策が充実しているように感じます。また、市内に「ららぽーと湘南平塚」がオープンし、商業施設が豊富な印象です。ただ、東海大生として感じるのは、大学から平塚駅前周辺への交通の便の悪さ。シャトルバスが運行できれば、人の往来が活発になると思います。市のイメージは七夕くらいです。住み続けるまちとして認知されるには、ハードルが高いのでは、と感じました。

【参加者】学生D

市内で人形浄瑠璃の取材をしたことがあります。地元の方々が年齢を感じさせない迫力ある演技をされており、印象に残っています。こうした伝統が地元の交流の場になりますし、魅力的に映ると思います。また、平塚市は湘南のイメージを定着させようとしています。藤沢市に住む両親や友人に聞くと、平塚市に湘南のイメージは浮かんでこない、とのことでした。

【参加者】学生E

取材で市内各所を見ましたが、出身地である埼玉よりも雰囲気がいいと感じました。自然があるし、買い物もしやすいです。ただ、安心や安全というイメージは低い印象で、住みたいと思うかどうかは怪しいかなと思います。また、平塚市はそもそも湘南かどうか、ということに疑問を感じます。湘南という名前は、テレビの影響もあり、やんちゃなイメージがあり、危ないまちという印象を受けます。湘南というブランドにこだわる理由があるのかどうか、再考し

てみていいのではないのでしょうか。

【参加者】 学生F

市内の博物館へ行った際、多くの親子連れが来館しており、いい雰囲気でした。ただ、観光と住む、というのはシティプロモーションをするにあたって、別物と考えています。住む、ということを見ると、第一に市民サービスの充実が挙がるのではないのでしょうか。住むためには、そのまちを好きになってもらわないといけない。そのためには、一度でも興味をもってもらって、まちを見てもらう機会がないといけないのですが、実際は難しいと思います。

【参加者】 学生G

住みやすいまちの特徴としては、交通の便の良さが挙げられると思います。平らなまちなので、自転車を利用しやすいように、道路整備を進めたらよいと感じます。海外では、自転車専用レーンやレンタルサイクルが普及しています。駅から海への通りや住宅街を中心に、平塚市でも積極的に事業展開してみるといいのではないのでしょうか。自転車だけでなく、セグウェイを導入するのも画期的で面白いと思います。また、セクシュアル・マイノリティの方々が偏見を持たれないよう、イメージの向上に努めることで、注目度が上がり、まちの印象が良くなる気がします。

【参加者】 学生H

市内に坂道が少ないため、いかに自転車を有効的に使えるかということを考えていければと思います。安全面を考えても、自動車より優れていると考えています。欧州では、自転車のみが入れるオフィス街があったりするなど、革新的な取り組みがあり、参考にできる部分もあると思います。

【参加者】 成川教授

サイクリングブームが起こっている地域は大抵アップダウンのある場所だと思います。それは自転車をスポーツとして捉えているからではないのでしょうか。平らな地域であれば、生活に密着した形で、自転車利用の推進を考えないといけません。レンタルサイクルの普及や自転車レーンの整備を通して、日常生活に関わる形で支援できるといいのではないのでしょうか。また、平塚市は湘南としてPRするより、西湘というブランドを使ってもいいのではないかと。

【参加者】 小泉教授

自転車については多くの意見がありました。道路交通法も絡むので、難しい部分もありますが、全国に先駆けて取り組めるものがあれば注目されると思います。イメージが結びついていない湘南というブランドに固執するのではなく、シフトチェンジも一つの選択肢だと感じました。また、手をつなぎたくなる街、というのは家族や恋人、大切な人同士が寄り添えるまちだと思います。いい印象を持ってもらえるよう、積極的な施策を展開できればと思います。

【参加者】市長

皆さんには、日々感じていることを率直に発言していただき、嬉しく思います。中には、耳が痛いと感じる発言もありましたが、それだけ、平塚市のことを真剣に考えてくれてのことだと思しますので、ありがたい限りです。

平塚市では、多種多様な産業がバランスよく存在しており、多くの雇用を創出しています。働きやすいというのは、それだけ住みやすいという部分に繋がると考えています。平塚市では、昼間と夜間の人口があまり変わらないというデータもあります。それだけ、生活と住居が接近しているまちだと思います。

少子高齢化が進行すると、税収が少なくなります。市の歳出としては、医療や介護にかかる支出が多いので、市民が元気でいられるまち、介護を必要としないまちであるよう、地域を通し、高齢者に対してケアをしていくことが大切と考えています。

東海大学から平塚駅方向へのアクセスについては、神奈川中央交通と話をしているところです。より良い交通網の整備を進めていければと思っています。新たにオープンしたららぽーと湘南平塚は、店舗数が247あり、通路も余裕をもって作られています。子育て世代にとっても、やさしいショッピングエリアだと思います。交通の便としては、特に真田や北金目のエリアは悪い状態であり、シャトルバスも含めて、移動がしやすくなるよう検討しているところです。平塚市は1932年4月1日に市政施行で、今年で84年となり、県内でも4番目に古い市にあたります。浄瑠璃などの伝統文化も残っていますが、若い世代への継承をどうしていくかは課題であり、どうPRしていくかだと思います。

湘南というブランドについては、時期は定かではありませんが、イメージアップの一環として、また地域として目立たせたいという思いから、以前よりアピールしているところです。ただ、若い世代の方々のイメージに、やんちゃであるとか、あまり良くないイメージがあることに驚きました。そうした点も踏まえて、どうブランドイメージを展開するかは、見極めないといけません。しかしながら、歴史的に見ると、大磯周辺が湘南の発祥である旨、文献で示されています。大磯町にはその旨の石碑もありますし、過去には、相模川より東側を湘南の東を表す湘東と呼んでいた時期もあるそうです。

観光に良いまちと住むことに良いまちは別物かもしれません。まずは、まちを知ってもらうことが大切です。そして、平塚市に住んでいて良かった。素晴らしいという思いをもってもらう。満足感を得られるよう、認知してもらわないといけません。

平塚市では、平成28年4月から、中学生についても医療費を無料にしました。本来であれば、国や県が率先して公平に制度を作らないといけないところ

ですが、家族にとって、医療費の負担を少しでも減らすことが、市民満足度の向上に繋がると考え、推し進めてきたところではあります。

市内には、15校の中学校があります。昼食については、お弁当を注文できるようにしていますが、やはり温かい食事を提供する給食が良いと考えます。ただ、現在は、安全性の確保を第一と捉え、校舎の耐震化を先行しているところではあります。安全性の見極めもしながら、進めていければと考えます。

レンタルサイクルについては、積極的にPRできればと思います。駅かららぼーとまでの利用は既に実施しており、駅から海までの利用についてもPRしてみても面白いと思います。車の観点から考えると、圏央道の開通により、関東内陸からの観光客が増加しているデータがあります。そうした人たちにもアクセスの良さから、市をアピールできるのではないのでしょうか。

セクシャルマイノリティの方々に対する偏見の払拭は、必要なことだと思います。そうした方々だけでなく、障がいを持つ方々も含めて、公的なサービスを差別なく受けられることが本来の社会と考えます。しかし、実際には、国が積極的に法律を整備し、施策を講じていくことが必要であり、一つの自治体だけでは限界もあり、難しいという面があります。

手をつなぎたくなる街というのは、地域として、高齢者や子どもたちをやさしく支えることができるまちだと思います。単身の高齢者が増加している社会情勢を踏まえ、身近でサービスを受けることができる仕組みづくり、地域包括ケアが重要との思いから、それを推進することがPRの一つになるのではないのでしょうか。

【参加者】学生A

ビジネスを例にすると、既存の顧客が満足しなければ、新規の顧客は増えないと思います。市民が満足感を得ないのは、市に対していいイメージが浮かんでいないからです。イメージとして結び付けられる具体的なものがあると思います。例えば、子育て世代の親御さんに、平塚市として打ち出している子育て施策を全面的にアピールしていく、というのも一つだと思います。また、平塚市の観光マップは、名所や名物を数多く掲載しています。ただ、ありすぎて全体が霞んでしまっています。選択と集中が必要で、平塚といえばコレというイメージを作る必要があります。余計なイメージ戦略を捨て去ることで、新たな可能性が構築できるのではないのでしょうか。ちなみに、市民に対してのプロモーションはあるのでしょうか？

【参加者】市長

そうした部分は現在弱いと思います。住んでいる人たちは、市民サービスを受けていることは当たり前と感じてしまっています。他市町村と比較すると、市独自のサービスとして充実していることがあっても、それを認知してもらっ

ていない部分があります。平塚市に住んでいて、有益性があると感じてもらえることができると思います。

【参加者】 学生B

現在住んでいる市民が情報発信することが大切と考えます。住んでみて初めて、市の良さを感じている人が多いのはアンケートから分かります。市民がよいイメージを持てば、伝えられる言葉ができるのではないのでしょうか。説得力が違ふと思います。平塚イコール住んでみたくなるまち、として認識してもらわないといけません。例えば、川崎市は音楽のまち川崎として、PRしていません。一番の売りは何かということを確認にしないといけません。

【参加者】 市長

平塚市の特徴として、七夕まつりがあります。若い世代の方々が、一年を通して、七夕を感じてもらえるような取り組みをしていますが、具体的な効果としては難しいところです。選択と集中だと思います。

【参加者】 学生C

学生の観点からすると、学校から平塚駅までのアクセスが良くなり、尚且つ、一人暮らしの物件が増えるとうれしいです。学生が移動する導線が活発になることで、まちに活気が出るのではないのでしょうか。

【参加者】 市長

市内には東海大学だけでなく、神奈川大学もあります。両大学の交通網の整備というのは必要なことだと考えます。先日オープンしたららぽーとでは多くの雇用も生まれていますし、顧客という考えだけでなく、働き手という部分においても、学生の流れがあることは良いことだと考えます。

【参加者】 学生D

藤沢市に住んでいますが、湘南ブランドは払拭すべきだと思います。ブランドを押していくよりも、住んでいて愛着を感じてくれるような戦略が必要だと感じています。住む人に対して、平塚市に住む有用性のアピールが弱いという印象を受けます。

【参加者】 学生E

湘南ブランドからの転換期を迎えている気がします。例えば、食のまち、として売り出すとか。以前にツインシティを取材したことがありますので、ツインシティを前面に出すと面白いと思います。そもそも、ブランドというのは他者との差別化を図ることで、初めて確立できるものです。そうしたものをコンセプトにしていけないのではないのでしょうか。

【参加者】 学生F

自治体の公的サービスを受けている人は、そのサービス内容を受けていて当然と考えています。サービスは自治体によって差異があり、平塚市の公的サー

ビスが他自治体と比較して優れている点をアピールしたらよいと考えます。中学生の医療費や保育所の整備率をコンセプトにしたらよいのではないのでしょうか。ターゲットを絞って認知度を上げていくことで効果が出ると思います。

【参加者】 学生G

平塚市は湘南ブランドから退いてもいいのではないかと、思います。若い世代としては、湘南と聞くと鎌倉のイメージが強いです。湘南に近い住みやすいまちというのが平塚の立ち位置のような気がします。

【参加者】 学生H

自分は千葉出身であり、大学近くのアパートに住んでいます。最近、アパート前に停めていた自転車が盗難にあってしまいました。警察に連絡し、防犯登録の番号を伝えたところ、後日警察から見つかったと連絡があり、その後、無事に自転車が戻りました。そのため、平塚に対していいイメージを持ちました。

【参加者】 市長

若い世代の方々と話をしていると、様々な考え方があることに気付き、嬉しかったです。率直に意見を聞き、これから目指さなければならない方向性を示さないといけないと思います。皆さんが来年1月にまとめる提案をしっかりと受け止めて、市の行政運営について心を込めて進めたいと思います。本日は有意義な時間をいただき、ありがとうございました。